

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **05225571 A**

(43) Date of publication of application: **03.09.93**

(51) Int. Cl. **G11B 7/00**
G11B 7/125

(21) Application number: **04028458**

(71) Applicant: **SONY CORP**

(22) Date of filing: **14.02.92**

(72) Inventor: **TACHIBANA KAORU**

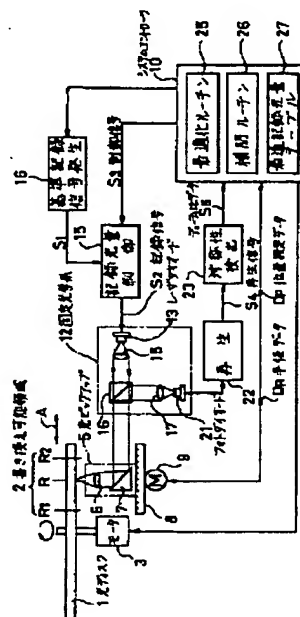
(54) **DEVICE AND METHOD FOR RECORDING OPTICAL DISK**

(57) Abstract:

PURPOSE: To find optimum recording light quantity corresponding to all recordable areas of individual optical disk at a relatively short time.

CONSTITUTION: In at least two positions (radius R_1 and radius R_2) of the radial direction A of the optical disk 1, the optimum recording light quantity are found respectively and the optimum recording light quantity in the residual positions in the radial direction A of the rewritable area 2 of the optical disk 1 are found by interpolation processing or extrapolation processing by using an interpolation routine 26 based on the two optimum recording light quantity. Thus, the optimum recording light quantity are found for all positions of the radial direction A of the rewritable areas 2 of individual optical disk 1 at a relatively short time.

COPYRIGHT: (C)1993,JPO&Japio



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-225571

(43)公開日 平成5年(1993)9月3日

(51)IntCl.⁵

G 1 1 B 7/00
7/125

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

L 9195-5D
C 8947-5D

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 8 頁)

(21)出願番号 特願平4-28458

(22)出願日 平成4年(1992)2月14日

(71)出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72)発明者 橘 薫

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内

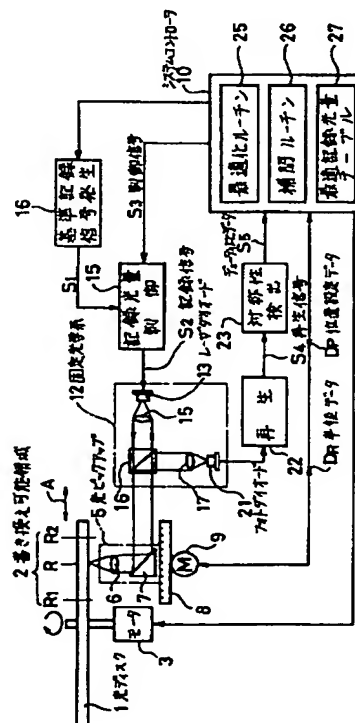
(74)代理人 弁理士 松隈 秀盛

(54)【発明の名称】 光ディスク記録装置およびその方法

(57)【要約】

【目的】 個々の光ディスクの全記録可能領域に対応する最適記録光量を比較的短時間に求める。

【構成】 光ディスク1の半径方向Aの少なくとも2つの位置(半径R₁と半径R₂)において、それぞれ最適記録光量を求め、この2つの最適記録光量に基づき、補間ルーチン26により光ディスク1の書き換え可能領域2の半径方向Aの残りの位置における最適記録光量を内挿処理または外挿処理により求める。このため、個々の光ディスク1の書き換え可能領域2の半径方向Aの全ての位置に対して最適記録光量を比較的短時間に求めることができる。



本発明は光ディスクの記録装置の目的が、
適用される光ディスクの記録装置である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 光ディスクの半径方向の少なくとも2つの位置において、それぞれ第1および第2の記録光量で上記光ディスクに情報を記録させる記録光量制御手段と、

上記光ディスクに記録された情報を再生して上記第1および第2の記録光量に対応した第1および第2の再生信号を出力する再生手段と、

上記第1および第2の再生信号と予め定められた最適再生信号とを比較する比較手段と、

上記比較手段の比較結果に応じて、上記記録光量制御手段に供給される第1および第2の記録光量を最適化する最適化手段と、

演算手段とを有し、

上記演算手段は、上記最適化手段によって最適化された第1および第2の記録光量に基づき、上記光ディスクの半径方向の残りの点において最適となる記録光量を内挿処理または外挿処理により求めるようにした光ディスク記録装置。

【請求項2】 光ディスクの半径方向の少なくとも2つの位置において、最適記録条件を求める第1の過程と、これら2つの位置で求めた最適記録条件を内挿処理または外挿処理を行うことにより、上記光ディスクの半径方向の残りの点における最適記録条件を求める第2の過程とを有する光ディスク記録方法。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】 本発明は、例えば、繰り返し記録再生可能な可逆型の光ディスクに適用して好適な光ディスク記録装置およびその方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 繰り返し記録再生可能な光ディスクに対して記録ピット（またはマーク）を形成する際、あるいは追記型の光ディスクに対して記録ピット（またはマーク）を形成する際には、それらの光ディスクに照射されるレーザ光の光量を適当な値に保持する必要がある。形成された記録ピットの形状を均一にかつ高密度にすることにより、再生エラーを少なくして記録密度を向上させるためである。

【0003】 光量を適当な値に保持するため、従来は、記録ピットを形成する際に、レーザ光の光量をモニターして、そのモニター光量が一定の光量になるような、いわゆる自動光量制御(Automatic Power Control)技術(ＡＰＣ技術)を採用している。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、光ディスクに対する最適記録光量は、個々の光ディスクで記録感度がばらつくことや、1枚の光ディスク内でも記録感度が一定ではないことから、上記ＡＰＣ技術だけでは不十分であり、高密度化には限界があった。

【0005】 本発明はこのような課題に鑑みてなされたものであり、個々の光ディスクに対する最適記録条件を比較的短時間に求めることのできる光ディスク記録装置およびその方法を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明光ディスク記録装置は、例えば、図1に示すように、光ディスク1の半径方向Aの少なくとも2つの位置R₁、R₂において、それぞれ第1および第2の記録光量で光ディスク1に情報を記録させる記録光量制御手段15と、光ディスク1に記録された情報を再生して上記第1および第2の記録光量に対応した第1および第2の再生信号S₄を出力する再生手段22と、上記第1および第2の再生信号S₄と予め定められた最適再生信号とを比較する比較手段23と、比較手段23の比較結果S₅に応じて、記録光量制御手段15に供給される第1および第2の記録光量を最適化する最適化手段25と、演算手段26とを有し、演算手段26は、最適化手段25によって最適化された第1および第2の記録光量に基づき、光ディスク1の半径方向Aの残りの点において最適となる記録光量を内挿処理または外挿処理により求めるようにしたものである。

【0007】 本発明光ディスク記録方法は、光ディスクの半径方向Aの少なくとも2つの位置R₁、R₂において、最適記録条件を求める第1の過程と、この2つの位置R₁、R₂で求めた最適記録条件を内挿処理または外挿処理を行うことにより、光ディスク1の半径方向Aの残りの点における最適記録条件を求める第2の過程とを有するものである。

【0008】

【作用】 本発明光ディスク記録装置によれば、記録光量制御手段15と再生手段22と比較手段23と最適化手段25とにより、光ディスク1の半径方向Aの少なくとも2つの位置R₁、R₂において、最適化された第1および第2の記録光量を求め、演算手段26により上記最適化された第1および第2の記録光量に基づき、光ディスク1の半径方向Aの残りの点において最適となる記録光量を内挿処理または外挿処理により求めるようにしている。このため、個々の光ディスク1の全記録可能範囲2に対して最適記録条件を比較的短時間に求めることができる。

【0009】 本発明光ディスク記録方法によれば、第1の過程で光ディスク1の半径方向Aの少なくとも2つの位置R₁、R₂において最適記録条件を求め、第2の過程でこれら2つの位置R₁、R₂で求めた最適記録条件を内挿処理または外挿処理を行うことにより、光ディスク1の半径方向Aの残りの点における最適記録条件を求めるようにしている。このため、個々の光ディスク1の全記録可能範囲2に対して最適記録条件を比較的短時間に求めることができる。

【0010】

【実施例】以下、本発明光ディスク記録方法が適用された光ディスク記録装置の一実施例について図面を参照して説明する。

【0011】図1は本実施例による光ディスク記録装置が適用された光ディスク記録再生装置の概略的な構成を示している。

【0012】図1において、1は光ディスクであり、この光ディスク1は、記録可能領域である書き換え可能領域2を有している。この書き換え可能領域2は、半径 R_1 から半径 R_2 までのリング状の領域になっている。なお、光ディスク1としては書き換え可能な光ディスクに限らず、1度だけ書き込むことが可能な光ディスクでもよい。また、光ディスク1には、このような書き換え可能領域2以外に再生専用領域も設けられている。

【0013】この光ディスク1は、システムコントローラ10の制御に基づきスピンドルモータ3によって一定の角速度(CAV)で回転されるようになっている。なお、一定の線速度(CLV)で回転するようにしてもよい。

【0014】この光ディスク1のディスク面に対向して記録ビットの書き込みまたは読み取りを行うための光ピックアップ5が配置されている。光ピックアップ5は対物レンズ6とミラー7とを有し、ガードレール8上を送り用モータ9等から構成される送り機構によって光ディスク1の半径方向Aに移動されるように構成されている。

【0015】光ピックアップ5の半径方向A上の位置、すなわち半径Rは、送り用モータ9の回転軸に接続されたエンコーダによって特定され半径データ D_R としてシステムコントローラ10に供給される。システムコントローラ10は、上記エンコーダからの半径データ D_R を基に上記送り機構を制御して、システムコントローラ10自体が発生する位置設定データ D_P で指定される所定の半径Rの位置に、光ピックアップ5を移動させることができる。

【0016】半径方向Aに移動される光ピックアップ5に対して固定光学系12が光学的に接続されている。固定光学系12は、光変調方式により制御されるレーザダイオード13を有している。レーザダイオード13には、記録光量制御手段としての記録光量制御回路15が接続されている。この記録光量制御回路15は、変調電流信号である記録信号 S_2 (図2B参照)をレーザダイオード13に供給する。この記録信号 S_2 の振幅は、システムコントローラ10から供給される制御信号 S_3 によって決定され、記録信号 S_2 のオン・オフ区間は、基準記録信号発生回路16から供給される2値の基準記録信号 S_1 (図2A参照)によって決定される。

【0017】レーザダイオード13は、記録光量制御回路15から供給される記録信号 S_2 に比例する光量を持つレーザ光を出射する。レーザダイオード13から出

射されたレーザ光は、コリメータレンズ15によって平行光とされた後、ビームスプリッター16を通じ、ミラー7によって向きが90度変更される。ミラー7によって反射された平行光は、対物レンズ6によって再び集光されてレーザ光として回転している光ディスク1に照射される。このようにして図示しない磁気回路と協働して光ディスク1に対して記録ビット(磁化ビット)が形成される。

【0018】一方、光ディスク1に照射された読み出し用のレーザ光は、記録ビットが形成された光ディスク1によって反射されて対物レンズ6、ミラー7、ビームスプリッター16および集光レンズ17を通じてフォトダイオード21に入射される。

【0019】フォトダイオード21の出力信号は、再生手段としての再生回路22に供給される。再生回路22は、供給されたフォトダイオード21の出力信号に基づき光ディスク1に記録されている情報を再生信号 S_4 ($S_{41} \sim S_{43}$) (図2C～図2E参照)として比較手段としての対称性検出回路23に供給する。

【0020】対称性検出回路23は、再生信号 S_4 に応じたデューティ比データ S_5 をシステムコントローラ10に供給する。

【0021】システムコントローラ10は、供給されたデューティ比データ S_5 を詳細を後述する最適化手段としての最適化ルーチン25により解析して所定の制御信号 S_3 を記録光量制御回路15に供給する。この最適化ルーチン25を繰り返すことにより制御信号 S_3 の最適化が図られる。

【0022】この場合、制御信号 S_3 の最適化、すなわち、レーザダイオード13からの発光光量Pの最適化が光ディスク1の半径方向Aの少なくとも2つの位置(この実施例では、書き換え可能領域2の最内周半径 R_1 と最外周半径 R_2)について行われ、書き換え可能領域2内の他の点における最適化は、演算手段としての補間ルーチン26によって直線補間、または予め定められた関数補間による内挿処理によって行われる。なお、予め定められた関数としては、例えば、予め複数枚の光ディスク1を一定角速度(CAV)で回転したときの半径方向Aの全ての点に対して求めた半径R対最適制御信号 S_3 (最適記録光量に対応する)の特性(以下、必要に応じて最適記録光量特性という)の平均的特性を表す関数に選択すればよい。

【0023】また、内挿処理に限らず、書き換え可能領域2内の適当な2つの位置の半径Rで最適記録光量を決定したときには、それら2つの半径R位置間の書き換え可能領域は、内挿処理により、それら2つの半径位置間の書き換え可能領域は、外挿処理により求めることができる。

【0024】直線補間の場合には、例えば、書き換え可能領域2の最内周半径 R_1 と最外周半径 R_2 で得た最適

記録光量の他に、半径 R_1 と半径 R_2 の中間の半径 R_3
 $\{R_3 = R_1 + (R_2 - R_1) / 2\}$ での最適記録光量
 を決定し、この3点の半径間を直線補間するように最適
 記録光量を決定してもよい。このように3点で直線補間
 を行うことにより、特に、光ディスク1を一定角速度
 (CAV)で回転して使用する場合に、上記した予め定
 めた関数による補間に近い補間値を得ることができる。
 なお、それほど高密度化が要求されない場合には、時
 間短縮のために、1つの半径位置で最適記録光量を決定
 し、他の半径位置においては関数近似により最適記録光
 量を決定するようにしてもよい。

【0025】このようにして補間ルーチン26によって
 求められた半径 R 対最適制御信号 S_3 の特性、言い換え
 れば、最適記録光量特性は、記憶手段としての最適記録
 光量テーブル27に記憶される。

【0026】したがって、この最適記録光量テーブル2
 7を参照することにより、書き換え可能領域2の全領域
 において最適記録光量で光ディスク1に記録することが
 可能になる。

【0027】次に上記実施例の動作について、特に、最
 適化ルーチン25について、図3に示すフローチャート
 を参照しながら以下詳しく説明する。

【0028】まず、光ディスク1がスピンドルモータ3
 の軸に配置されたことを検知したシステムコントローラ
 10は、位置設定データ $D_P = R_1$ を出力して送り用モ
 ータ3を制御することにより光ピックアップ5を半径方
 向 A の中心方向に移動させ、書き換え可能領域2のうち
 最内周半径 R_1 の位置に配置固定する(ステップS10
 1)。なお、半径データ $D_R = R_1$ は、モータ9のエン
 コダの出力データにより確認することができる。

【0029】次に、システムコントローラ10は、制御
 信号 S_3 の値を適当な値に設定して記録光量制御回路1
 5に供給する。この場合、基準記録信号発生回路16か
 ら図2Aに示す基準記録信号 S_1 が記録光量制御回路1
 5に供給されることにより、図2Bに示すように、振幅
 が制御信号 S_3 の値によって決定された記録信号 S_2 が
 レーザダイオード13に供給される。この記録信号 S_2
 に応じたレーザダイオード13からのレーザ光によって
 光ディスク1に記録ビットが形成される。

【0030】次に、読み出し用のレーザ光が光ディス
 ク1に照射され、上記のように形成された記録ビットに
 対応する反射光がフォトダイオード21によって読み取
 られ再生回路22により再生信号 S_4 が形成される(ス
 テップS102)。このときの再生信号 S_4 は図2Cに示
 すような波形の再生信号 S_{41} であるものとする。

【0031】この再生信号 S_{41} が対称性検出回路23に
 供給される。対称性検出回路23は、例えば、再生信号
 S_{41} の最大レベル V_{MAX} の $1/2$ の基準レベル V_R にお
 けるデューティ比データ S_5 ($S_5 = B/A$)を作成す
 る。システムコントローラ10は、このデューティ比デ

ータ S_5 ($S_5 = B/A$)を読み込み(ステップS10
 3)、読込んだデューティ比データ S_5 ($S_5 = B/A$)が50%であるかどうかを判定する(ステップS1
 04)。

【0032】ステップS104の判定において50%で
 なかった場合には、次に50%以上であるかどうかを判
 定される(ステップS106)。

【0033】この場合、再生信号 S_4 が図2Cに示す再
 生信号 S_{41} であるので、50%未満であり、記録信号 S_2
 に基づくレーザダイオード13の記録光量が過多とな
 っていることが分かる。そこで、制御信号 S_3 を所定量
 減少させて記録光量制御回路15にその所定量減少させ
 た制御信号 S_3 を供給することで記録信号 S_2 を所定量
 減少させる(ステップS106)。

【0034】もし、再生回路22から出力される再生信
 号 S_4 が図2Eに示すような再生信号 S_{43} であった場合
 には、対称性検出回路23から読み込まれるデューティ
 比データ S_5 ($S_5 = B/A$)が50%以上になる。こ
 の場合には、制御信号 S_3 を所定量増加させて記録光量
 制御回路15にその所定量増加させた制御信号 S_3 を供
 給することで記録信号 S_2 を所定量増加させる(ステ
 ップS107)。

【0035】このようにしてステップS102～ステ
 ップS107を繰り返すことによりデューティ比データ S_5
 $(S_5 = B/A)$ が50%になったときには、再生回
 路22から出力される再生信号 S_4 が図2Dに示すよ
 うな、基準レベル V_R と再生信号 S_4 の交点 F を基準にほ
 ぼ点対称になる再生信号 S_{42} になる。なお、デューティ
 比データ S_5 ($S_5 = B/A$)が50%の再生信号 S_4
 により記録情報を再生した場合には、再生データの欠落
 等の不具合が最も起こりにくくなる。この場合、再生エ
 ラーの発生が少なくなつて信頼性が向上する。

【0036】このようにして、ステップS104の判定
 が成立することで、半径 R_1 の点における最適制御信号
 S_3 の値を決定することができる。この最適制御信号 S_3
 の値はシステムコントローラ10内の図示しない記憶
 手段に記憶される(ステップS108)。

【0037】同様にして、半径 R_2 の点における最適制
 御信号 S_3 の値を決定することができるのでそれもシ
 ステムコントローラ10内の図示しない記憶手段に記憶し
 ておく。

【0038】次に、システムコントローラ10は、補間
 ルーチン26により書き換え可能領域2のうち、半径 R_1
 の位置と半径 R_2 の位置とを除く他の半径位置にお
 ける最適制御信号 S_3 の値を内挿処理によって求める。

【0039】図4は、この内挿処理によって求められた
 最適制御信号 S_3 、すなわち最適記録光量特性30を示
 している。この最適記録光量特性30は、半径 R_1 の点
 で求められた最適制御信号 S_3 に対応する最適記録光量
 P_1 と半径 R_2 の点で求められた最適制御信号 S_3 に対

10

20

30

40

50

応する最適記録光量 P_2 との間が関数補間された特性になっている。なお、最適記録光量特性30は最適記録光量テーブル27として記憶される。

【0040】このように上記の実施例によれば、光ディスク1の半径方向Aの少なくとも2つの位置（半径 R_1 と半径 R_2 ）において、最適記録光量 P_1 、 P_2 を求め、補間ルーチン26により光ディスク1の書き換え可能領域2の半径方向Aの残りの位置における最適記録光量を内挿処理により求めるようにしている。このため、個々の光ディスク1の書き換え可能領域2の半径方向Aの全ての位置に対して最適記録光量を比較的短時間に求めることができる。したがって、各記録位置で、上記のようにして求めた最適記録光量で記録を行うことにより高密度記録化が実現できるという派生的な効果も得られる。

【0041】なお、図3に示した最適化ルーチン25は、光ディスク1の交換時または装置の電源投入時等に行なわれるようにしてもよい。また、1つのトラック内の円周方向の異なる記録位置で光ディスク1の記録感度が異なるような場合には、所定範囲のセクタ毎に上記した最適化ルーチン25と補間ルーチン26を実施して、上記所定範囲のセクタ毎の最適記録光量テーブル27を作成するようにしてもよい。

【0042】また、本発明は上記の実施例に限らず本発明の要旨を逸脱することなく種々の構成を採り得ることはもちろんである。

【0043】

【発明の効果】以上説明したように、本発明光ディスク記録装置によれば、記録光量制御手段と再生手段と比較手段と最適化手段とにより、光ディスクの半径方向の少なくとも2つの位置において、最適化された第1および第2の記録光量を求め、演算手段により上記最適化された第1および第2の記録光量に基づき、上記光ディスク

の半径方向の残りの位置において最適となる記録光量を内挿処理または外挿処理により求めるようにしている。このため、個々の光ディスクの全記録可能範囲に対して最適記録光量を比較的短時間に求めることができるという効果が得られる。

【0044】本発明光ディスク記録方法によれば、第1の過程で光ディスクの半径方向の少なくとも2つの位置において最適記録条件を求め、第2の過程でこれら2つの位置で求めた最適記録条件を内挿処理または外挿処理を行うことにより、上記光ディスクの半径方向の残りの位置における最適記録条件を求めるようにしている。このため、個々の光ディスクの全記録可能範囲に対して最適記録条件を比較的短時間に求めることができるという効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による光ディスク記録装置の一実施例が適用された光ディスク記録再生装置の構成を示す線図である。

【図2】図1に示す光ディスク記録再生装置の動作説明に供される波形図である。

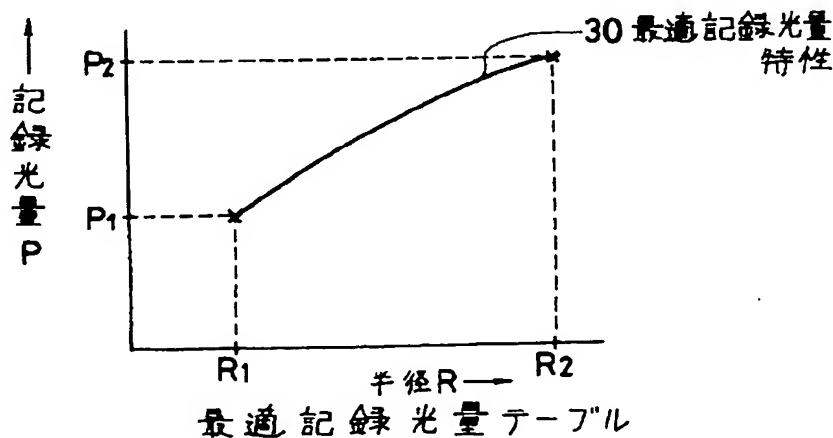
【図3】図1に示す光ディスク記録再生装置の動作説明に供されるフローチャートである。

【図4】図1に示す光ディスク記録再生装置によって求められた最適記録特性を示す線図である。

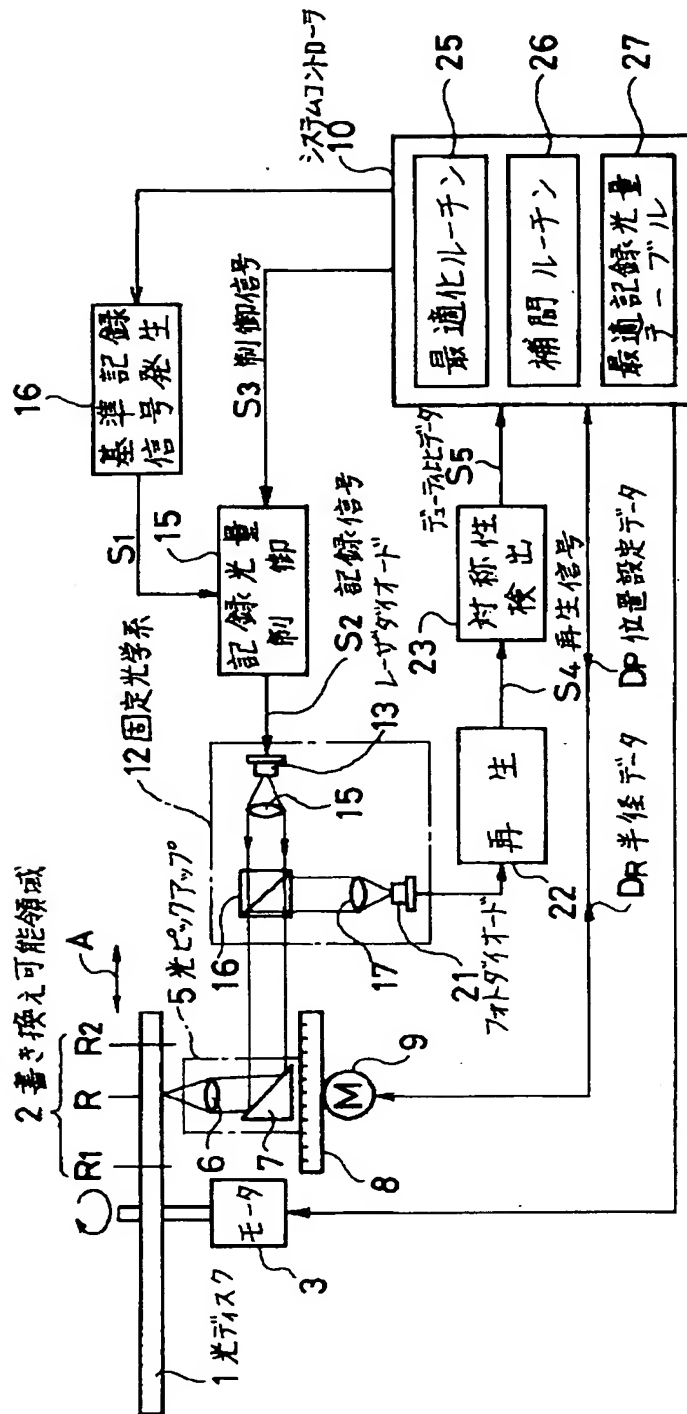
【符号の説明】

- 1 光ディスク
- 2 書き換え可能領域
- 15 記録光量制御手段
- 22 再生回路
- 23 対称性検出回路
- 25 最適化ルーチン
- 26 補間ルーチン
- 27 最適記録光量テーブル

【図4】

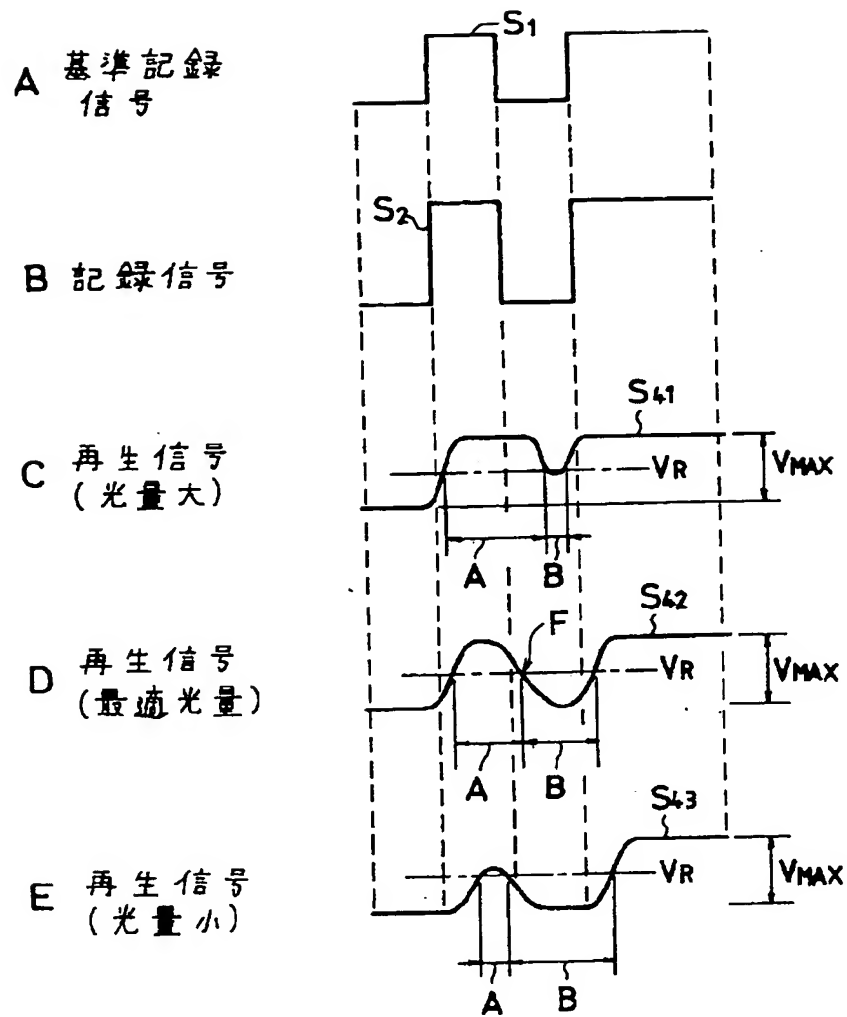


【図1】



本発明光ディスク記録装置の例が
適用された光ディスク記録再生装置

【図2】



記録再生信号の波形

【図3】

